



「ものづくりカテゴリー」製品組立チャレンジ

2020年8月に福島県、10月に愛知県でそれぞれ開かれる世界中のロボット技術者たちの祭典「ワールド・ロボット・サミット(WRS)」開幕まであと1年と迫る中、WRSの佐藤知正実行委員長(東京大学名誉教授)に、WRS応援サポーターの杉本雛乃さんが見どころと意気込みなどを聞きました。

### 「社会に組み入れる」 ロボットを

**杉本** そもそもWRSはどのような目的で始まったのでしょうか。

**佐藤** ロボットを社会に入れ、促進することが大目的です。もともとは安倍晋三首相が14年のOECD会議で、「ロボットによる産業革命」を打ち出したのがきっかけです。これを実現するために官邸に会議が設置され、15年2月に「ロボット新戦略」が発表されました。

その一環で、4年に1度のオリンピック時に「ロボット・オリンピック」を開こうとの話が出て、その実現に向けた研究会が発足しました。その後、名称が「WRS」に決定しました。昨年、プレ大会が東京で開催されました。

**杉本** ロボットコンテスト自体はたくさんありますが、そうしたロボコンとの違いは。

**佐藤** ロボコンは科学技術の振興を図るものが多く、イベント実施自体が目的となる場合も多いです。一方WRSはロボットを「社会に組み入れる」ことが目的で、イベント機会を「利用している点で大きく違います。WRSは「ロボット競演」と表現しています。今は科学技術が成熟しており、ロボットを社会に組み入れることで、価値が生まれます。成功確率が一定とすると、トライした数に比例して成功確率は上がります。少数よりたくさんの方が参加した方が当然よい。競技会はその一環です。大事なのは学び方を学ぶこと。競技会は最適な学び方といえます。

**杉本** WRS競技は4つのカテゴリーに分かれていますね。

**佐藤** 日本はモノづくりが強いから「ものづくり」分野を設定しました。さらに少子高齢化による中、サービスは日本にとって欠かせない。それで「サービス」分野。また日本は災害大国ですから「インフラ・災害対応」分野。将来に向けて若い人たちが育てていくことも必要不可欠なわけで、「ジュニア」

分野も設定しました。WRSは展示会も同時に開く競技会ですが、単に同時開催するだけでは統一メッセージを発信できません。そこで、展示は人間とロボットの将来の姿を提示したいと考えました。例えば30年後に実現するものを示すとすると、20年後、10年後にそれぞれ何を示せばよいか。こうした視点を複眼するロードマップを策定し、それに沿った競技を練りました。

### 競技紹介

ロボットが実際の課題を解決する姿を示し、ロボットの社会実装を促進するための4カテゴリーから構成される競技会です。

**●ものづくりカテゴリー**  
様々な生産要求に(時には一品物の生産要求にも)、迅速かつ無駄なくスリムに対応できるシステムを構築し、未来の生産システムを実現することを目的とします。

**●サービスカテゴリー**  
人間とロボットの協働で生活環境を実現する「パートナーロボットチャレンジ」。ロボット技術で従業員の負担軽減と、顧客への付加価値を創造する「フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ」を実施。

**●インフラ・災害対応カテゴリー**  
プラント災害予防やトンネル災害対応など、特別困難な課題をロボットで達成することを目的とした競技。人々の間でロボットに関連したコンセンサスを構築します。

**●ジュニアカテゴリー**  
人間とロボットが共生し協働する未来を担う若い世代を育成します。競技は「スクールロボットチャレンジ」「ホームロボットチャレンジ[ミニサイズ]」「ホームロボットチャレンジ[リアルサイズ]」の3種。

WRS実行委員会委員長 佐藤 知正  
東京大学 名誉教授

WRS応援サポーター 杉本 雛乃  
東京大学 大学院 工学系研究科在籍

# WRS

ワールド・ロボット・サミット

## 開幕まで1年

### 昨年、国際的大会として成功

**杉本** 昨年のプレ大会についてどのような感想をお持ちですか。

昨年、国際的大会として成功した。当初、国際的大会にすることが目的の一つだったので、大きな成功といえます。上位は海外勢に

昨年、国際的大会として成功した。当初、国際的大会にすることが目的の一つだったので、大きな成功といえます。上位は海外勢に

昨年、国際的大会として成功した。当初、国際的大会にすることが目的の一つだったので、大きな成功といえます。上位は海外勢に

**佐藤** 20年大会がもうすぐです。福島第一原子力発電所の事故を受け、国は災害対応ロボットのテストフィールドを福島県につくりました。落ちた橋や壊れた建物等があり、格好の試験場になりました。この機会を捉えて福島県で「インフラ・災害対応」分野を実施。優れたロボットを世界に発信することになりました。また愛知県は日本で最大のロボットユーザー地域。自動車会社やそれに関連する企業が集積して、ロボットを使いこなすという意味で、大変先進的だと思います。こういった地域で大会を開くのは非常に面白いと思います。



「インフラ・災害対応カテゴリー」プラント災害予防チャレンジ

参加チーム エントリー受付中!!  
2019年 8月31日(土) まで

Robotics for Happiness

# WRS

World Robot Summit

## 2020

2020 AICHI / FUKUSHIMA

会場 愛知県国際展示場 AICHI SKY EXPO  
福島ロボットテストフィールド FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD

2020年10月8日(木)~11日(日) 2020年8月20日(木)~22日(土)

主催 経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry NEDO

賞金・各種表彰  
各競技の上位入賞チームに対し、賞金が授与される予定です。賞金の総額は2018年東京大会実績額(約1億円)同等以上を予定しています。その他、各種表彰を検討しています。

競技参加者経費のサポートについて  
参加チームの渡航費や運搬費が支援される場合があります。

最新情報ははこちら  
WRS2020